

2023年1月22日 (第211号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉

わたしたちのしていることが、大洋の中の一滴の水にすぎないことを知っています。でも、このひとしずくがなければ、この大洋に、ひとしずくの水が足りないことになるのです。

シノドスの道 各小教区で分かちあう時間と機会を

カトリック高松司教区教区管理者
イスマエル・ゴンザレス神父

クリスマスと新年のご挨拶を申し上げます

ご存じと思いますが、世界のカトリック教会は今、教皇フランシスコが2021年秋から始められた「シノドスの道」の旅を続けています。何百人もの信者が今年2023年10月と来年2024年の10月の二期にわたる世界代表司教会議通常総会へ向けての歩みに参加しています。

洗礼を受けた全ての人は、「教会の将来のために参加を」という教皇の呼びかけを積極的に受け止める必要があります。一人ひとりの声に耳を傾け合い、共に歩むことが求められているのです。

私たちがまず答えねばならない問いは、「イエスの福音を告げ知らせ、共に歩む教会として、今日のどのような歩みをしているか」です。

今回の「シノドスの道」のプロセスから、私たちはキリストのうちに兄弟姉妹として集い、みことばを分かち合い、将来の教会のために進むべき道について耳を傾け合う機会を与え

られた喜びを感じています。これまでの歩みの報告は、

世界の教区から司教協議会を経て、パチカンのシノドス事務局へ集められ、事務局がそれをまとめる形で昨年10月に「大陸レベルの歩みのための作業文書」として発表し、日本語訳も中央協議会から出されています。

日本の司教協議会会長の菊地大司教は先ごろ出された日本の教会へのメッセージで、「この文書を読んだあとに、この三つの設問についてそれぞれの場で分かち合いをすることは、道を識別するための大きな手がかりになり得るものです。どうぞ教会全体でこの作業文書に目を通されて、それぞれの場での状況に応じて、小グループでの分かち合いなどを継続していただければ幸いです」と呼びかけておられます。

私たちは、時のしるしの中で、また、個人やグループで福音書を読み直すことで、主の言葉に触れていきます。キリスト教の宗派が違っていても、イエスに従う私たちは、自分自身を兄弟姉妹と認識し、一致するため

の対話が必要です。これによって、世界は変革され、善意ある全ての人々に平和と喜びをもたらすことができるでしょう。

世界中のキリスト教徒の使命は、洗礼から教会における様々な責任を果たし、言葉と秘蹟の交わるテーブルを囲むことで頂点に達します。

また、私たち信者は、初めて「シノドスの道」に参加できる喜びを感じながら、同時に教会の闇も感じています。権威主義、地域社会との関係、未成年者に対する性的虐待、経済的圧力、権力、および政治的問題への教会の闇を多くの人が感じているのです。そして、それらは私たちの良心を傷付けます。

教会は、天使たちの集まりではなく、人間の集まりであることを忘れてはなりません。今ある教会の傷を癒すのに長い時間と道のりを覚悟せねばなりません。

私たち人間の問題は、他人を批判する前に、自分自身を鏡で見るのが大事です。多分、(自分自身が)「自分がイメージする人間

ではない」と気付くはずではない。

教会は、高齢者の足跡に敬意を示しながら、教会の刷新のために新しい人々に会いに出かけねばなりません。最も弱く壊れやすい人々のためにも、下の世代のためにも新しい意見を取り入れることは不可欠です。喜びに溢れ、進取の気性に満ちた若者の姿(存在)を今の教会は求めているのです。

また、障害のある方のため、サポートするためのバリアフリー設備や器具を用意せねばなりません。今世紀に教会が直面して

いる大きな課題として、世俗主義、個人主義、相対主義、宗教への無関心があります。ここで、教会における唯一の正当な権威は、『主の足跡を辿る愛と奉仕の権威でなければならない』と言わねばならないでしょう。

私たち教会の男性は、女性が教会生活に十分参加できるように、女性の役割をあらゆる角度から深く見直す必要があります。貧困、家庭内暴力、仕事、給与、屈辱感など生活全般を女性の立場で考えねばなりません。洗礼を受けた全ての人

は、個人のクリスマと召命に従って、教会活動に積極的に参加しましょう。「シノドスの道」は、まだ続いています。第二ステップに積極的に参加できるように準備をしておきましょう。そのための時間は未だ残されています。

高松教区も、各小教区において自分の考えや気持ちを分かち合う時間と機会を持つ事が大切です。祈りのうちに、私たちは指導者となる新しい司教の任命を待っています。

はばたき

近代の福祉を学べば、対人支援にはラポール(信頼関係)が不可欠と習います。ラポールは、支援者と支援対象者との相互の努力と協力で形成されます。しかし現場で出会う支援対象者には、様々な事情や理由によりラポールを形成するエネルギー(多くの事を考えて重要な事を理解しながら多くの事を感じる力等々)を持っていない方も居られます。ラポールの形成不全を理由にして、支援対象者から離れる支援者も居ます(バーンアウトするよりも)。そして、福祉のセーフティネットから溢れてしまう方が少なくありません。

ラポールを形成するエネルギーを持っていない方とどうやって関わるか? 寄り添う等と大逸れたことは言えませんが、その方を訪問して、その方の在り方を尊重する事。「また来てもいいですか?」「また来ますね」断られても「また来ます」これが続けて、ラポールを形成するエネルギーを取り戻せる(エンパワメントできる)かもしれません。逆に、ますます頑なにされる方も居るかもしれませんが、その方の在り方を尊重する。それができれば、訪問の成功に驕らず失敗しても悲観しない支援者で在りたい。

諏訪司教感謝の集い 11年間のご指導ありがとうございました

11月26日、桜町教会に教区内小教区等の代表者が集まり、教区長を退任された諏訪司教様のご指導のこれまでのご指導とお働きに感謝申し上げ、司教様の益々のご活躍を祈念する集いをミサの形でおささげしました。

この中で司教様の今後の歩みについて説明があり、1月1日付けで、司教様が宇和島教会・八幡浜教会担当司教として赴任され、宇和島教会・八幡浜教会担当の申神父様が徳島地区共同宣教チームへ異動することが発表されました。



コロナ禍を考慮し代表者が集いました



15人の司祭・助祭によるミサ



霊的花束と生花の贈呈



式後、あちこちで記念撮影も



感謝ミサの動画

地区・プロックの話題

徳島地区

徳島地区でこの秋開催した2つの行事をご紹介します。

徳島教会 山口文字

10月16日ミサ後、フォトジャーナリスト小原一真氏を迎えて写真展と講演会を行いました。(下段コラム「ウクライナ戦争の見えない犠牲者ロマ」は講演を聴いた青年の感想文です。)

11月6日ミサ後、各教会を



出発して、勝浦町での『みかん狩り』とアトラクションを楽しみました。103名が参加し、国籍、言葉、文化の違

いを超えて、ほど良い田舎の秋を満喫し皆が一つになりました。

乾神父様(左写真中央)も大はしゃぎ、皆で最後は阿波踊りとなりました。そして神父様から主の祝福を頂き集いを終了しました。



愛媛地区

2022年度愛媛地区南予プロック交流会へ八幡浜聖堂見学会・聖母幼稚園初ミサ

2022年度の南予プロック交流会が宇和島教会当番、八幡浜教会の聖堂と八幡浜聖母幼稚園を会場に、2022年10月30日(日)11時〜12時にミサとその後のお会食(みなと八幡浜)で行われました。

主司式は、高松司教区前教区長使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教、共同司式は、ロザリオ学園理事長ホアン・マヌエル・ゴンザロ・ベルモンテ神父、宇和島・八幡浜教会担当司祭のアシジのフランシスコ申繁時神父、教区事務局長小山一助祭でした。八幡浜聖堂と聖ドミニコ学園聖母幼稚園の改築は耐震強化のために2020年5月30日に竣工しました。コロナ禍のために、南予プロック

を共にする宇和島教会の方々は2年半にわたり、訪問することはできませんでしたが、この度、初めて訪問され、この建設にご貢献下さった諏訪司教様と聖ドミニコ会ホアン理事長とともに担当の申神父、

小山教区事務局長、白濱前園長(現顧問)、魚海園長も参加され、共同司式の初ミサを聖母幼稚園で行いました。主の導きのうちに、多くのかかわってくださった方々に改めて感謝がさげられました。

◇教区スケジュール◇

- 1月
- 1日(日) 神の母聖マリア
- 8日(日) 主の公現
- 9日(日) 主の洗礼 成人の日
- 15日(日) 年間第2主日
- 18日(水) キリスト教一致祈祷週間(25日まで)
- 22日(日) 年間第3主日(神のことばの主日)
- 25日(水) 聖パウロの回心
- 29日(日) 年間第4主日 世界子ども助け合いの日

- 2月
- 2日(木) 主の奉献
- 3日(金) 福者ユスト高山右近殉教者
- 5日(日) 年間第5主日
- 11日(土) ルルドの聖母 世界病者の日
- 12日(日) 年間第6主日
- 19日(日) 年間第7主日
- 22日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎)
- 23日(木) 天皇誕生日
- 26日(日) 四旬節第1主日



聖母幼稚園ホールでミサ



八幡浜聖母幼稚園正面



聖堂・幼稚園にご貢献下さった諏訪司教様とホアン理事長



宇和島の信者の方々が改築後2年半で見学しました

徳島教会 小幡翼

ヨーロッパ旅行に行った経験のある方であれば「ジプシー」というのは聞き覚えがある言葉かもしれない。また我々日本人は「ジプシージャズ」や「ジプシーダンス」といった文化に親しみのある方もいるのではないだろうか。しかし「ジプシー」という言葉は現在、差別用語として国際的に避けられている言葉であるということとを我々はまず認識する必要がある。正式にはロマと呼ばなくてはならない。

ロマの方々には歴史にも渡る絶対的貧困から抜け出せずにいる。現に、チェコではロマの方を明確に差別するような制度がかつてあった。例えば、ロマの方

現状

ロマ民族の方への差別なのかもしれないという現状だ。我々はまず考え、検討する必要がある。一見当たり前のことかもしれないが、重なることであると私は感じる。そしてロマの方々用の避難施設へは国際的な支援が行き届かず、彼らの生活はボランティア等の支援団体や人々の善意によって成り立っている。

ウクライナ侵襲を受けて



現在ロシアからの侵襲を受けて多くのウクライナ在住の方々も国外もしくは国内に避難をしているのは周知の事実である。しかし、ロマの方々の中には国内避難さえしたくてもできない医療へのアクセスがある。特別な事情がある方が少なからずいるのだ。そもそも、ボランティア団体の活動によってのみ生活が成り立っているロマの避難民の方々は十分な医療を受けることができていない。その他にも食事の栄養バランス、施設が体を休めるに足るものではないなど様々な問題がある。

ウクライナ戦争の見えない犠牲者ロマ

とチェコ民族の方との教育カリキュラムや教室を分け、軍が検問を通してくれず、異なる教育を施すような制度がかつてあった。また、ロマの方には勉強を教えた方々の中には文字が読めないため身分証発行の手続きの仕方が分からないという問題や、身分証を発行するだけのお金を持ち合わせないといった問題を抱えている方がいる。

我々ができる現実的な支援

そんな状況の中でも、少しずつロマの方々のおかれている状況が支援団体により改善されてきているという。我々が現実的にできる物理的支援というのは、そういった支援団体へ関心を持ち、例えば少額であっても支援団体に寄付をしていくことだと私は思う(クレジットカードによる支払いが可能など同時にはある)。それと同時にロマの方の歴史

その根本的理由はもしかすると社会に根深く存在する直ちに安心した暮らしが保証されていないという現状だ。隣国において、ロマの方々というのは他の避難民の方々と違う施設で生活することを強いられるケースがある。そしてロマの方々用の避難施設へは国際的な支援が行き届かず、彼らの生活はボランティア等の支援団体や人々の善意によって成り立っている。そのような現状のなか、ロマの方々用の避難施設が抱える大きな課題の一つに医療へのアクセスがある。他の避難民とは違い、ボランティア団体の活動によってのみ生活が成り立っているロマの避難民の方々は十分な医療を受けることができていない。その他にも食事の栄養バランス、施設が体を休めるに足るものではないなど様々な問題がある。我々ができる現実的な支援、それは、物理的支援というのは、そういった支援団体へ関心を持ち、例えば少額であっても支援団体に寄付をしていくことだと私は思う(クレジットカードによる支払いが可能など同時にはある)。それと同時にロマの方の歴史